

北部太平洋，日本海底棲生物調査

担当者 技 師 富 永 武 治

" 沢 田 兼 造

東奥丸 船 長 高 井 英 和

I 調 査 目 的

本県日本海北部漁場における底びき網漁場開発と底棲魚族の分布，移動状況を把握し，底びき網漁業の発展に資する。

II 調 査 内 容

1. 調 査 場 所 本県日本海北部海域
2. 調 査 期 間 昭和42年12月26日～昭和43年3月5日
3. 調査項目及び方法
 - a. 項 日 魚種別月別漁獲高。月別漁獲推移
操業海区別，水深別漁獲高月別漁獲推移。
 - b. 方 法 試験船東奥丸（38.35トン）により1艘びき底びき網漁法にて調査。

III 調 査 結 果

東奥丸により昭和42年12月26日から調査を開始した。本年度調査期間中における操業日数は22日で曳網回数79回（内曳網不能回数2回）総漁獲量は7,188 Kgであった。調査期間中における漁獲物の主な魚種組成並びに魚種別漁獲高は次のとおりである。

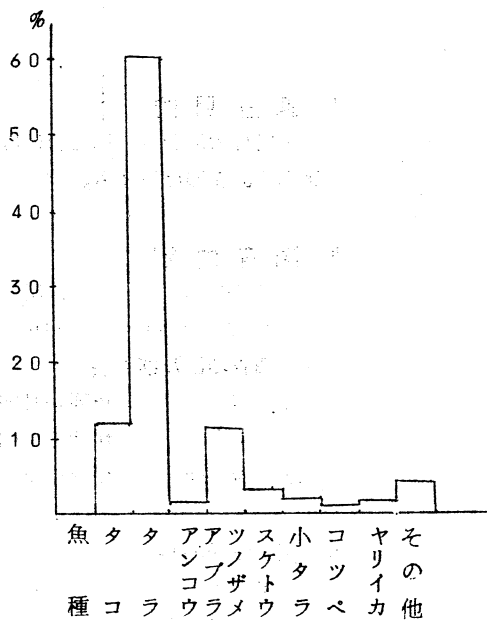
第 1 表

魚 種 別	12 月	1 月	2 月	3 月	計	%
タ ラ	11 Kg	1,134 Kg	2,857 Kg	412.5 Kg	4,414.5 Kg	61.4 %
タ コ	14.5	216	137	60	427.5	5.94
ア ン コ ウ	6	30	31	44.5	512	7.12
アブラツノザメ	5	220	350		575	7.99
スケトウタラ		73	390		463	6.44
小 タ ラ		44	198		242	3.44
カ シ ベ		30			30	0.41
ヤ リ イ カ		34	93		127	1.76
ヒ ラ メ			142.5		142.5	1.98
ババカレイ			18		18	0.25
イ シ モ チ			1.5		1.5	0.02
マ ガ レ イ			12		12	0.16
カナガシラ			26		26	0.36
ハ タ ハ タ			19		19	0.26
そ の 他	40	48	90		178	2.47
計	76.5	1,829	4,365	917.5	7,188	100 %

第 2 表

(42年12月～43年1月分)

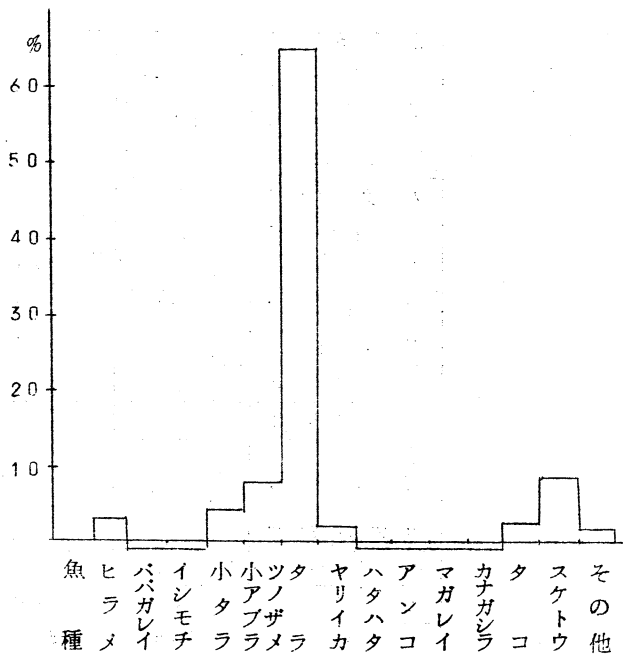
魚 種	数 量
タ ラ	1,145 Kg
小 タ コ	230.5 Kg
ア ン コ ウ	36 Kg
アブラツノザメ	225 Kg
ス ケ ト ウ	73 Kg
小 タ ラ	44 Kg
コ ツ ペ	30 Kg
ヤ リ イ カ	34 Kg
そ の 他	88 Kg
計	1,905.5 Kg



第 3 表

(43年2月分)

魚 種	数 量
ヒ ラ メ	142.5 Kg
ババガレイ	18 Kg
イ シ モ チ	1.5 Kg
小 タ ラ	198 Kg
小 アブラツノザメ	350 Kg
タ ラ	2,857 Kg
ヤ リ イ カ	93 Kg
ハ タ ハ タ	19 Kg
ア ン コ	31 Kg
マ ガ レ イ	12 Kg
カ ナ ガ シ ラ	26 Kg
小 タ コ	137 Kg
ス ケ ト ウ	390 Kg
そ の 他	90 Kg
計	4,365 Kg



第4表 42年度、月別操業日数、曳網回数、漁獲量及び1曳網当り漁獲量

項 目 \ 月	12月	1月	2月	3月	計
操 業 日 数	1日	6日	13日	2日	22日
曳 網 回 数 (内は曳網不能回数)	5回	21回	43回 (2回)	8回	77回 (2回)
漁 獲 量	7.65 Kg	1,829 Kg	4,365 Kg	917.5 Kg	7,188 Kg
1曳網当り漁獲高	15.3 Kg	87.09 Kg	97 Kg	114.68 Kg	78.32 Kg

第5表

○ 主要魚種別、年別、漁獲高、比較表

魚種 \ 年別	漁 獲 高		$\frac{B}{A}$
	41年度	42年度	
アブラツノザメ	7,917 Kg	573 Kg	7.26%
タ ラ	2,372	4,414.5	186.1
ハ タ ハ タ	655	19	2.9
スケトウダラ	447.5	463	10.34
そ の 他	1,222	178	1.42
計	12,613	5,649.5	44.77

又、本年度実施した調査の操業海区別、水深別漁獲高は第1図のとおりである。

42年は12月26日に初めて出漁し、例年ならば12月下旬ごろから漁期に入るタラの漁獲は不振であった。

魚体は小型のものが多く、体長36～40cmで漁場は鰺ヶ沢港からNW/N 12～13 哩、水深325m～330mであった。

43年1月に入り例年ならタラの主漁期に入るのであるが5日間出漁しただけで主な漁獲物はタラ1,134Kg、タコ216Kg、アブラツノザメ220Kg等である。タラの魚体は12月と余り変化なかったが雌雄共に熟度が増してきた。

2月は時化続きで8日間出漁したが、漁場は鰺ヶ沢～出来島沖で、魚種の主体はタラ(2,857Kg)であるが出来島沖ではヒラメ(142Kg)も漁獲された。

3月は2回の調査で打切り、日本海マスはえなわ漁業試験準備作業に取りかかった。

3月における主な漁獲物は小タラ、スケトウダラ等で例年通り漁獲が低下してきている。

小島

竜飛崎 へ 帯崎

140°

140° 10'

$$140^{\circ} \mid 20'$$

黒島ノ瀬
権現崎 小泊港

高山

出来島
40° 50'

大戸瀬崎

田野沢

北金ヶ浜

赤石

柳田

風合瀬

馬 木

東奥丸底棲生物調査海區別漁獲高調

経過時間	操位	業置	漁水深	操業回数	漁獲高	%
42.12 3.3.4	わの 11	320 ~ 330 m	23回	Kg 996.5	13.3%	
"	かの 11	335 ~ 370 m	28 "	4,278.5	59.5	
"	よの 11	335 m	5 "	170	2.4	
"	るの 11	350 m	2 "	282	3.9	
"	をの 11	370 m	3 "	270	3.8	
"	らの 11	105 m	5 "	5	0.0	
"	なの 20	245 m	9 "	899	12.5	
"	その 4	103 ~ 105 m	4 "	213	3	
"	との 3	100 m	1 "	74	1.0	
計			80回	Kg 7,188	% 100	

139° 50'

25 24 23 22 21 20 19 18 17

な
ら
む
う
え
の
お
く
ふ

Ⅳ 考 察

鰯ヶ沢・深浦地区における沖合底びき網漁業の現況についてみると、こゝ1～2年鰯ヶ沢地区では、タラ、アブラツノザメ、深浦地区ではヒラメ、カレイ類が主な漁獲対象となっている。又両地区の当業船とも、その年のアブラツノザメの漁獲如何によって経営面が支配されているようである。

それだけにアブラツノザメに依存するウエイトは大きく本年度、鰯ヶ沢地区で漁獲されたアブラザメは昭和34年度以降最も多く、こゝ2～3年前終漁期にあらわれる雄ザメが本年度は例年より早く12月～1月に大量に水揚げされたことは注目される。

このようなことから当業船のアブラツノザメに対する期待は大きく、今後は回遊移動状況把握のため標識放流の実施並びに生態調査と併せて新漁場の開発を推進しなければならないと考えられる。